



学生相談室を気軽に利用してみませんか？

学生相談室では学生のみなさんの学生生活が充実したものになるようにサポートしています。みなさんが悩んだり、迷ったりしたときに、学生相談室員(教員)、看護師、学校医(精神科医)、専門のカウンセラー(SC:臨床心理士)やソーシャルワーカー(SSW:精神健康福祉士)がみなさんの相談に耳を傾け、気持ちを分かちあい、一緒に考えてくれます。

相談というほどのことでなくても、話を聞いてもらいたいなということがあれば、学生相談室を気軽に利用してください。

学校医、SC、SSW への相談は予約制になっています。保健室で予約できますので、看護師に相談してください。看護師への相談は直接保健室へ、相談室員(教員)への相談は直接研究室を訪ねてください。(事前にメールなどで予約すると安心ですね)

学生相談室: E-mail: sodan.kochi@kochi-ct.ac.jp

学生相談室長専用電話: 090-4330-4061 E-mail: sodan.kochi2012@docomo.ne.jp

高知高専保健室: 088-864-5537

～ 令和2年度 学生相談室 当番表(後学期) ～

	月	火	水	木	金
昼休み	市木 12:10～12:40	市村 12:10～12:40	市木 12:10～12:40	光畑SC 11:00～16:00	洲脇SSW 12:00～17:00
放課後	近藤SC 15:00～17:00	光畑SC 12:30～17:30 上田SC 17:30～19:30	西本SC 15:30～17:30 (第2,4水曜日)	ピアサポーター 15:30～17:30	渋谷Dr 15:30～17:30 (第3金曜日)

ピアサポーター制度を後学期より開始します。

教職員には言いにくいこと、聞きにくいことなどは同じ環境で生活している**ピアサポーター(専攻科生)**に相談してみませんか？ピアサポーターが自分の経験に基づいて修学や日常生活のアドバイスを行ってくれます。問題の解き方、レポートの書き方、試験勉強対策、進学や就活の相談など先輩が気軽に相談に乗ってくれますので、ぜひ活用してください。

ピアサポーターは予約制です。毎週水曜日 12:45 までに保健室で予約を入れてください。

「悩みが多かった学生時代」

私は学生時代(高校～大学時代)に「何をやっても充実感が得られない」という悩みを持ち続けていました。学生時代の私は「具体的な人生の目標や目的・夢」などというものが持てず、人の言うことに流されてばかりいたと思います。「今を頑張ることが大事」と頭では分かっているけど、頑張りが続くだけの「具体的な人生の目標や目的・夢」が無いから結局頑張りが切れず、充実感が得られない。このような抜け出せないループに陥っていました。

明治維新の原動力となった吉田松陰*は以下の名言を残しています。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」



中山 信 相談室員

つまり、「夢や目標が無いと意味あるものは得られない」。だから、夢や目標が無かった自分は充実感が得られなかったのだと思います。この名言との最初の出逢いは、高校時代、「松陰神社(東京都世田谷)」に立ち寄った際だったと記憶しています。その時は(なるほどなあ)と感銘を受けた記憶がありますが、当時の自分を救う言葉ではなかったため忘却し、大人になってから言葉の価値を再認識して思い出すようになりました。

行動の前に、夢や目標が必要なのはわかりました。でも、社会をあまり知らない学生時代に、具体的な人生の夢や目標を持つことは難しい事なのではないかと思います。社会に出て、世の中の厳しさと自分の甘さを知り、そこで本当に自分のやりたい事に気付く。それからが本当の人生のスタートであり、「具体的な人生の目標や目的・夢」が見つかり、努力に意味が付き、充実感をえられるようになる。私の人生は正にそのような展開でした。

ここまで読んで「この先生は一体何を言っているんだ？」という学生は、迷いのない充実した学生生活を送れているので良い事だと思います。自分の将来を工学系と決めて入学してくる高専生には、そのような迷いのない学生が多いと感じています。しかし、もし仮に、昔の自分のように今抜け出せないループに陥っている学生がいたら、「まだ若いから大丈夫」「もがいた分だけ将来の肥やしになる」と伝えたいです。だから、「今」をあまり思いつめすぎず、人生の長いスパンでの「今」として、もう少し気楽に自分の悩みと付き合ってみて下さい。

*吉田松陰(よしだしょういん)1830～1859:長州藩(山口県)出身。

松下村塾(しょうかそんじゅく)にて尊王攘夷(そんのうじょうい:天皇を敬い外国の侵略を退ける思想)を説き、久坂玄瑞・高杉晋作・伊藤博文・山県有朋など明治維新を担う多くの若者を輩出。当時海外渡航が禁止の日本で、外国で学びたい強い意志から、小舟でペリーの黒船に近づき密航(失敗)。最後は安政の大獄で処刑、と、本当に火の玉みたいな人。

「想像する力」

皆さんは本を読みますか？

今年は新型コロナウイルスの影響により外出の自粛が求められたことから、読書を始めたり、読書の時間が増えたりした人も多いのではないのでしょうか。私は紀行文や SF、歴史小説をよく読みます。行ったことのない場所、行くことのできない時代や世界を想像するのが楽しいからです。

私の好きな写真家に、星野道夫という人がいます。アラスカを中心とする極北の自然と野生動物、そこに生きる人々の暮らしを写真と文章で記録していった人です。この方は写真家ですが、独特の語り口で綴られた文章が非常に印象的で、心に残ります。彼の作品では、生き物の多様性や自然の不思議さ、想像力について繰り返し語られます。たとえば、次のような文章があります。

“大都会の東京で電車で揺られている時、雑踏の中で人込みにもまれて、ふっと北海道のヒグマが頭をかすめるのである。

ぼくが東京で暮らしている同じ瞬間に、同じ日本でヒグマが日々を生き、呼吸をしている……

確実にこの今、どこかの山で、一頭のヒグマが倒木を乗り越えながら力強く進んでいる……

そのことがどうにも不思議でなかった。”(『旅をする木』より)

これは、彼が皆さんと同じ年頃のころに思い悩んでいたことだそうです。この「不思議さ」は後に、「すべてのものに平等に同じ時が流れている不思議さ」であったと語っています。日々の生活に追われていると、どうしても自分の身近なことしか考えられなくなってしまいます。でも、その瞬間にも世界には同じ時が流れていて、それぞれの場所でそれぞれの生活が営まれている。この不思議さを感じ、その遠い世界を想像することができれば、きっと心が豊かになるでしょう。

これから社会は、Society 5.0 と呼ばれる、ロボットや AI をあらゆる分野で活用するとともに、多様性が重視される時代へと進んでいきます。このような社会で活躍するための鍵は、「想像力」ではないのでしょうか。多様性の根底にあるのも、他者への想像力だと思います。また、人間が AI と異なるのは、想像力があるかどうかだと私は思います。どこかの山にいるヒグマを想像し、その不思議さを考えることができるのは、人間だけだと思います。想像力は創造力です。身近な情報に流されるだけでなく、たまには遠い世界に意識を向けてみましょう。読書の秋、この機会にさまざまな本を読んで、想像力を養ってみませんか。



横山 有太 相談室員

